

## 9. 水無川の下流部の河川環境について

雲仙普賢岳の噴火災害は平成 3 年 5 月 15 日の水無川の土石流で始まった。その後 6 月 30 日に現在の導流堤に沿って土石流が発生して、家屋被害が発生した。さらに、平成 5 年 4 月 28 日から 7 月にかけて水無川で土石流が頻発し、これによって水無川の下流域は壊滅的な被害を受けた。土石流の応急緊急対策として水無川の堤防の嵩上げと仮設導流堤が建設された。

水無川の河川改修にあたっては国道 57 号より下側は川幅の拡幅は行われず、掘り下げとコンクリート張りの河道が整備された。安中三角地帯の嵩上げによる復興、雲仙岳災害記念館や道の駅水無本陣ふかえ等の整備により、安中地区は復興の拠点となった。また、水無川の導流堤下流部は緑化が進み、緋寒桜の植栽、安中梅林の再生、われん川の水路の再生によって、自然豊かな地域住民の散策の場として生まれ変わった。

一方、水無川の下流部はコンクリートむき出しの河川のままである(写真-1)。河川改修後には水無川下流部には水が流れていなかった。しかし、平成 23 年 6 月、8 月および平成 24 年 3 月に現地調査をしたところ、国道 251 号から下流にはいずれの時も水が流れていることが確認された(写真-2, 3)。水無川の左岸側には遊歩道と並木が整備され、さらに水辺に近づける石段や通路が整備されている。また、右岸側には道の駅水無本陣ふかえがある。水無川の国道 251 号より下側に流路工を整備して、この地区を散策や自然とのふれあいの場にできないかと考えている。この河川は改修済みで、河川全体を元に戻すことは困難であるが、国道 251 号より下流の流路工の整備は可能であると判断している。



写真-1 国道 251 号より上流の水無川  
平成 23 年 6 月  
高橋和雄 撮影



写真-2 国道 251 号より下流の水無川  
平成 23 年 6 月  
高橋和雄 撮影



写真-3 林出大橋より下流の水無川  
平成 23 年 6 月  
高橋和雄 撮影